

受講番号 19103 学校名 県立高知南中学校 氏名 三村 香里

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 27人名  
 科目名 1年生 単位数(授業時数) 4 時間 使用教科書名 New Horizon English Course 1

クラスの様子・特徴

音読練習のときはよく声が出ているが、一人ひとりチェックするとまだ発音に自信がない生徒がいる。発音された単語の意味は分かっても、書くことができない生徒がいる。また、すぐに単語の読み方を忘れてしまっている。

問題の確定

個人レベルになると英語を正確に発音できていない。アルファベットや単語が正しく書けないことが問題点である。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
中学1年生といってもいつまでもフレッシュな気持ちで授業に取り組めてはいない。だんだん、クラスの雰囲気慣れ、馴れ合いになっている。音読練習では大きな声では読めていても正しく読めず、正確に単語を書けない生徒がいる。	英語に興味がある生徒が約9割、英語を必要だと思っている生徒が全員であるのに対し、単語を書いたり言ったりすることができない生徒が1割程度いる。しかし、生徒たちは英語を話したい、書けるようになりたいという願いを持っている。	英語に関するアンケートからは、約1割の生徒がアルファベットや単語を書くことに苦手意識がある。音読練習のときはよく声が出ているが、一人ひとりチェックするとまだ発音に自信がない生徒がいる。

リサーチ・クエスト

「語彙力を伸ばすための効果的な音読指導」  
 効果的な音読練習を積み重ねることにより、自信を持って英語を発音し、正しく単語を書けるようになるにはどうしたらよいか。

仮説・実践・検証

仮説1	実践1	検証1
授業において、リスニング力を高める指導を取り入れることで、英語の音やリズムに慣れ、語句の発音に自信が持てるようになるのではないかと。	リスニング力を高めるために、授業のWarm-upとして定期的にリスニング教材を取り入れる。1学期は教科書準拠のリスニング教材のみ行っていたが、2学期からは「中学生のためのListening Adventure」(学校図書)を使用した。問題数は5問程度とした。	最初は、問題が容易だったため、全員が全問正解であった。途中から他の教材を扱い、内容や形式が固定化しないようにした。次第に要領に慣れ全問正解する生徒が増えたが、逆に取り組みに飽きて、全問正解にこだわらない生徒が出始めたが、まとまりのある英語を聞かせることで英語の発音を聞くことに慣れてきた。
教科書に出てくる単語の読み書きが定着すれば、積極的に音読練習に取り組むのではないかと。	①単語シート『いくつ言えるかな?』…毎時間、教科書に出てくる単語やフレーズの表現を中心に語句のインプットを図った。主に、ペアで音をチェックし合った。1回の取り組みに、一人60秒を費やした。 ②語句テストの実施…1年生で覚えてほしい語句を夏休みの課題から順に抽出し、毎金曜日に10問テストを10回実施した。10点満点を合格とし、そうでない場合は、翌水曜日に再テストを行った。	『いくつ言えるかな?』は1枚につき、約1週間かけて単語やフレーズを発音するので、ペアで発音をチェックし合うことにより楽しく活動に参加できていた。また、定期的にテストを行うことで、授業の最初に緊張感が生まれた。テストの結果については、8割の生徒が100語の中で約85語を理解し、書くことができた。満点を取れなかった生徒は再テストを受けたが、受けただけで単語を書けるような支援ができたとは言えない。
授業の中で、音読をする方法を工夫することで、生徒たちが楽しく活動に参加できるのではないかと。	学期の終わりに音読テストを実施。授業での音読方法として、repeating、個人読み、ペア読み、Read & Look-upを行った。特に、個人読みでは時間を区切り、ペア読みではお互いの発音をチェックし合った。読むときに飽きさせないためにリズムをつけさせたり、イントネーションが記されているワークシートを読ませたりした。また、家庭学習として本読みカード(よむぞうカード)を配布し、音読練習を実施した。	1学期に比べてスムーズに読み、リズムやイントネーションに気をつけて読める生徒の割合が増えた。家で音読練習をする生徒は3分の2ほどであった。授業の中で、個人読みをする機会をとり、机間指導やペア読みで発音をチェックした。読むときに飽きさせないためにリズムをつけさせたり、イントネーションが記されているワークシートを読ませたりした結果、生徒がより英語らしくスムーズに音読できるようになった。

研究の成果

①『いくつ言えるかな?』では、反復することで語彙の定着が図れた。また、教科書の重要語句との連動により、本文の内容理解を助けることができた。②「語句のテスト」では、金曜日実施により、週末まで授業に緊張感を持つことができた。そして、テストの得点も次第に伸びている。③「効果的な音読指導」では、読み方を工夫したり、ペア読みを活用したりすることで、音読に対する意欲の向上が見られた。生徒からは、楽しい、内容が頭に入りやすい、単語の読み方が分かること書き方も分かるようになってきたという声も聞かれるようになった。

今後の授業改善の課題

練習方法の一部パターン化により飽きてくる生徒が見受けられた。音読方法の組み合わせを更に工夫する。今後は、ShadowingやParallel readingなども多く取り入れていかなければならない。「読むこと」だけでなく「書くこと」の指導にも力を注ぎたい。そのためには、語彙力強化のみならず、文レベルでの自己表現できるような活動を取り入れていきたい。また、語順を意識した音読指導を発展させていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-831-2811